

ピクテ・バイオ医薬品ファンド

(1年決算型)円コース/(毎月決算型)為替ヘッジなしコース/(1年決算型)為替ヘッジなしコース

主要バイオ医薬品企業の2024年4-6月期決算と注目ポイント

POINT

- 2024年4-6月期の主要バイオ医薬品企業の決算は売上高が概ね好調
- 主要バイオ医薬品企業は、HIV予防薬や非オピオイド鎮痛剤、肥満関連、炎症関連など注目の治療薬候補(パイプライン)の開発が進展

■ 2024年4-6月期の主要バイオ医薬品企業の決算は売上高が概ね好調

当ファンドが投資対象とするバイオ医薬品企業の2024年4-6月期の決算内容はまちまちとなりました。

当ファンドの組入上位の銘柄では、ギリアド・サイエンシズ(米国)、リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国)が、主力治療薬の販売が好調だったことから売上高、利益ともに市場予想を上回る決算となりました。またアムジェン(米国)は企業買収による費用の増加、モデルナ(米国)は治験などの費用の増加などが影響し利益は市場予想を下回りましたが、売上高は市場予想を上回りました(モデルナは赤字)。一方、バーテックス・ファーマシューティカルズ(米国)は、売上高が小幅に市場予想を下回りましたが、2024年通期の売上高見通しは引き上げました。

組入上位5銘柄 2024年7月末時点

	銘柄名	国名	解説	構成比
1	ギリアド・サイエンシズ	米国	HIVやC型肝炎など感染症治療薬の分野に強みを持つパイオニア。新型コロナ感染症の治療薬でも存在感を示す。バイオ医薬品銘柄の中でも安定性の高い銘柄。	8.9%
2	アムジェン	米国	関節リウマチ、骨粗しょう症の治療薬などが主力のバイオ医薬品企業。バイオシミュラー(バイオ後続品)にも取り組む。肥満治療薬のパイプラインも注目。	8.5%
3	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	がん、眼病や慢性炎症などの分野で非常に革新的な治療薬を研究、開発、商品化しているバイオ医薬品メーカー。	8.0%
4	バーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	嚢胞性線維症治療薬(CF)のパイオニア。CRISPRセラピューティクス(米国)と世界初の遺伝子編集治療の承認を受けたほか、非オピオイド鎮痛剤のパイプラインも注目。	7.8%
5	モデルナ	米国	メッセンジャーRNAによるワクチンや治療薬の研究・開発に注力するバイオ医薬品企業。新型コロナウイルスのワクチンに加え、RSVワクチン、がんワクチンの開発でも注目を集める。	4.3%

※ピクテ・バイオ医薬品マザーファンドの状況です。

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ ギリアド・サイエンシズ(米国)

2024年4-6月期の決算は、売上高、1株あたり利益ともに市場予想を上回りました。また、2024年通期ガイダンスについて、1株当たり利益(調整後)を従来予想の3.45~3.85米ドルから3.60~3.90米ドルに引き上げました。

同社の基幹領域であるHIV治療薬のビクトルビの売上が前年同月比+8%と伸びた他、がん領域のイエスカルタ、テカルタス(ともに細胞療法)、肝疾患領域の治療薬群などが堅調で業績をけん引しました。またHIV関連では、予防薬レナカパビルの年2回注射の治験でHIV感染を完全に予防したとの治験結果を発表しました。

構成比 8.9% (組入1位)

2024年4-6月期決算 売上高、1株あたり利益ともに市場予想を上回る

売上高 69.54億米ドル(市場予想67.19億米ドル)

1株あたり利益(調整後) 2.01米ドル(市場予想1.60米ドル)

2024年通期ガイダンス 利益予想を引き上げる

製品売上高 271~275億米ドル 従来予想から変更なし

1株あたり利益(調整後) 3.60~3.90米ドルに引き上げ(従来予想 3.45~3.85米ドル)

トピック

2024年1-3月期に続き、基幹領域であるHIV、がん、肝疾患領域が業績をけん引
HIV予防薬レナカパビルの年2回注射の治験でHIV感染を完全に予防したとの結果を発表

ギリアド・サイエンシズの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2018年12月31日~2024年8月26日

(米ドル)



※配当含まず

※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ アムジェン(米国)

2024年4-6月期の決算は売上高が市場予想を上回った一方、1株当たり利益は市場予想を下回りました。ホライゾン・セラピューティクス買収が、収益力強化につながった一方で、買収に絡む費用の増加が利益を押し下げました。また少なくとも12の治療薬が前年同期比で二桁の売上成長を達成しました。

2024年通期ガイダンス(業績予想)については、従来予想に対して若干、上方修正しています。

現在、開発中の肥満治療薬候補マリタイドについては、治験が進行中で、2024年中にはデータが取得される予定で、引き続き注目されます。

構成比 8.5% (組入2位)

2024年4-6月期決算 売上高が市場予想を上回る

売上高 83.9億米ドル(市場予想83.4億米ドル)

1株当たり利益(調整後) 4.97米ドル(市場予想4.98米ドル)

2024年通期ガイダンス 若干の上方修正

売上高 328~338億米ドル (従来予想 325~338億米ドル) 市場予想330.4億米ドル

1株当たり利益(調整後) 19.10~20.10米ドル(従来予想 19.00~20.20米ドル) 市場予想19.51米ドル

トピック

肥満治療薬候補として注目のマリタイドは治験が進行中 2024年後半にはデータ取得予定
2024年4-6月期は少なくとも12の治療薬が前年同期比で二桁の売上成長を達成

アムジェンの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2018年12月31日~2024年8月26日



※配当含まず

※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国)

2024年4-6月期の決算は、売上高、利益ともに市場予想を上回りました。ぜんそく、アトピー性皮膚炎などの治療薬デュピクセント(サノフィ(仏)との共同開発)と加齢黄斑変性症治療薬アイリーア(高用量)が業績をけん引しました。

主力薬デュピクセントの慢性閉塞性肺疾患(COPD)への適応拡大についての米FDAによる審査結果は2024年9月27日までに判明する見通しです。また多発性骨髄腫(MM)治療薬候補リンボセルタマブの米FDAによる審査は製造設備の問題で遅れています(同社は問題は解消しているとしています)。そのほか、米国では承認されていませんが、リンパ腫治療薬オルドスポノが欧州委員会(EC)により承認されました。

構成比 8.0% (組入3位)

**2024年4-6月期決算 売上高、利益ともに市場予想を上回る
デュピクセント好調、市場はパイプラインに注目**

売上高 35.5億米ドル(市場予想33.7億米ドル)

1株当たり利益(調整後) 11.56米ドル(市場予想10.61米ドル)

トピック

デュピクセントの慢性閉塞性肺疾患(COPD)への適応拡大 米FDAによる審査結果は9月27日までに判明
多発性骨髄腫(MM)治療薬候補リンボセルタマブの米FDAによる審査は製造設備の問題で遅れ
リンパ腫治療薬オルドスポノを欧州委員会(EC)が承認(米国では未承認)

リジェネロン・ファーマシューティカルズの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2018年12月31日~2024年8月26日

(米ドル)



※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまで参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ バートックス・ファーマシューティカルズ(米国)

2024年4-6月期の決算は、主力の嚢胞性線維症治療薬トリカフタ/カフトリオが好調でしたが、売上高は小幅に市場予想を下回りました。また、既存治療薬の販売促進および開発中のパイプラインへの投資による費用増に加え、アルパイン・イミュン・サイエンシズの買収による費用などが影響し、利益は赤字となりました。一方、通期の売上高見通しについては、引き上げました。

注目の非オピオイド鎮痛剤スゼトリギンは2025年1月30日までに、嚢胞性線維症の新しい治療薬は2025年1月2日までに米FDAによる承認審査の結果が判明する予定です。また鎌状赤血球症/ β サラセミアの遺伝子治療キヤスゲビィの販売拡大にも取り組む方針を示しました。

構成比 7.8% (組入4位)

2024年4-6月期決算 市場予想を下回る

売上高 26.5億米ドル(市場予想26.6億米ドル)

1株当たり損失(調整後) 12.83米ドル(市場予想11.63米ドル)

2024年通期ガイダンス 売上高見通しを引き上げ

売上高 106.5~108.5億米ドル

(従来予想 105.5~107.5億米ドル)(市場予想107.6億米ドル)

トピック

非オピオイド鎮痛剤スゼトリギン 米FDAの審査結果が2025年1月30日までに判明

嚢胞性線維症の新しい治療薬 米FDAの審査結果が2025年1月2日までに判明

鎌状赤血球症/ β サラセミア 遺伝子治療キヤスゲビィの販路拡大に取り組む

バーテックス・ファーマシューティカルズの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2018年12月31日~2024年8月26日

(米ドル)



※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ モデルナ(米国)

2024年4-6月期の決算は売上高が市場予想を上回った一方、1株当たり損失については市場予想よりも悪い数値となりました。なお2024年通期ガイダンスについては、欧州連合(EU)における新型コロナウイルスワクチンの販売が低迷するとの見通しなどを受けて、売上高の予想を引き下げました。

RSVワクチンは2024年5月に米FDAにより承認され、7月より出荷を開始しています。またメルク(米国)とのがんワクチンの開発については、治験が順調に進んでおり、引き続き注目されています。

構成比 4.3% (組入5位)

2024年4-6月期決算 売上高は市場予想を上回る

売上高 2.41億米ドル(市場予想1.31億米ドル)

1株当たり損失 3.33米ドル(市場予想は3.14米ドルの損失)

2024年通期ガイダンス 引き下げ

売上高 30~35億米ドル (従来予想 40億米ドル)

EU向けの新型コロナウイルスワクチンの販売が低迷する見通し

トピック

RSVワクチンは2024年6月に米FDAから承認を受け、同年7月より出荷を開始
がんワクチンの開発への期待は継続 メルクとの開発で良好な研究結果
季節性インフルエンザワクチン 2024年中に承認申請する見通し

モデルナの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2018年12月31日~2024年8月26日



※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまで参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

投資リスク

[基準価額の変動要因]

- ファンドは、実質的に株式等に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動等(外国証券には為替変動リスクもあります。)により変動し、下落する場合があります。
- したがって、投資者の皆様が投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

〈全コース〉

株式投資リスク (価格変動リスク、 信用リスク)	<ul style="list-style-type: none"> ●特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、平均的な株式市場の動きと比べて異なる動きをする場合やその価格変動が大きい場合があります。また、未上場・未登録の株式の組入れを行うこともありますが、これらの株式は流動性が上場株式に比べて著しく劣る場合があります、価格変動が極めて大きい場合があります。 ●組入れた株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。
--------------------------------	--

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース〉

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース〉

為替変動リスク	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは、実質的に外貨建資産に投資するため、対円との為替変動リスクがあります。 ●円高局面は基準価額の下落要因、円安局面は基準価額の上昇要因となります。
---------	---

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース〉

為替に関する 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは、実質的に外貨建資産に投資するため、対円との為替変動リスクがあります。ファンドは高位の為替ヘッジ比率を保つことで為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジが行われない部分やオーバーヘッジとなる部分が発生すると考えられます。したがって、部分的にはありますが、為替変動の影響を直接受けることが想定されます。 ●為替ヘッジを行う場合には、為替ヘッジを行う通貨の金利と円金利を比較して、円金利の方が低い場合には、当該金利差相当分の為替ヘッジコストがかかります。なお、為替ヘッジを行うことによって、為替変動の影響が完全に排除できるとは限りません。
---------------	--

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

[その他の留意点]

- ESGを考慮し銘柄を絞った選定を行いますので、平均的な株式市場の動きと比べて異なる動きをする場合やその価格変動が大きい場合があります。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

ファンドの特色

〈詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください〉

〈全コース〉

- 主に世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資します

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース〉

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース〉

- 原則として為替ヘッジを行いません

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース〉

- 原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース〉

- 毎月決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います

- 毎月13日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース〉

〈ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース〉

- 年1回決算を行います

- 毎年4月13日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

—分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

—収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託会社が決定します。また、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

—留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※ファミリーファンド方式で運用を行います。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

[収益分配金に関する留意事項]

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

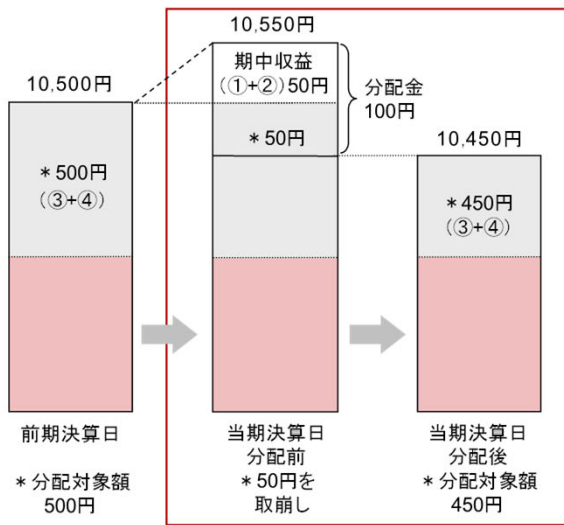
投資信託で分配金が支払われるイメージ



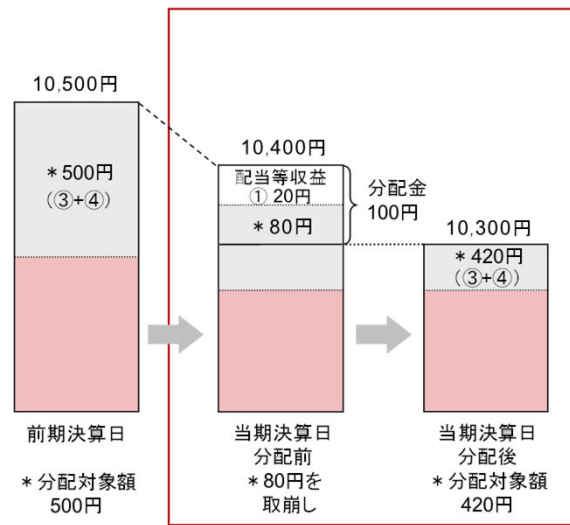
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



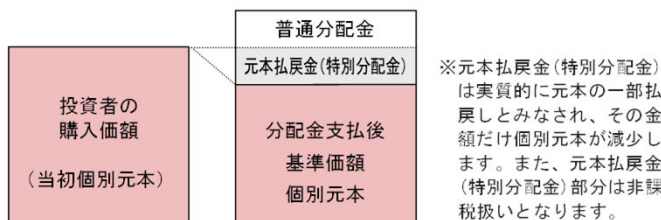
前期決算日から基準価額が下落した場合



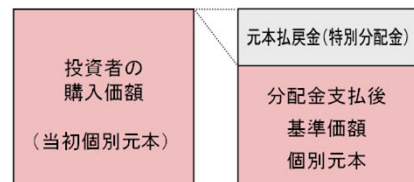
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 ※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、「手続・手数料等」の「税金」をご参照ください。



手続・手数料等

【お申込みメモ】

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日においては、購入・換金のお申込みはできません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	<p>《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》 2004年10月29日(当初設定日)から無期限とします。</p> <p>《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》 2017年1月18日(当初設定日)から無期限とします。</p> <p>《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》 2000年4月14日(当初設定日)から無期限とします。</p>
繰上償還	各ファンドにつき、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	<p>《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》 毎月13日(休業日の場合は翌営業日)とします。</p> <p>《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》 毎年4月13日(休業日の場合は翌営業日)とします。</p>
収益分配	<p>《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》 年12回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。</p> <p>《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》 年1回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。</p> <p>※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。</p>

【ファンドの費用】

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	3.3% (税抜3.0%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。(詳しくは、販売会社にてご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	<p>毎日、信託財産の純資産総額に年2.09%(税抜1.9%)の率を乗じて得た額とします。</p> <p>運用管理費用(信託報酬)は毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。配分は次のとおりとし、委託会社と各販売会社の配分は各販売会社の取扱い純資産総額に応じて計算するものとします。</p> <p>【運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>各販売会社の取扱い純資産総額</th> <th>委託会社</th> <th>各販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300億円以下の部分</td> <td>年率1.0%</td> <td>年率0.8%</td> <td rowspan="2">年率0.1%</td> </tr> <tr> <td>300億円超の部分</td> <td>年率0.9%</td> <td>年率0.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、委託会社の運用管理費用(信託報酬)には、マザーファンドの運用指図に関する権限の委託先に係る投資顧問会社への報酬が含まれています。</p>	各販売会社の取扱い純資産総額	委託会社	各販売会社	受託会社	300億円以下の部分	年率1.0%	年率0.8%	年率0.1%	300億円超の部分	年率0.9%	年率0.9%
各販売会社の取扱い純資産総額	委託会社	各販売会社	受託会社									
300億円以下の部分	年率1.0%	年率0.8%	年率0.1%									
300億円超の部分	年率0.9%	年率0.9%										
その他の費用・手数料	毎日計上される監査費用ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)は、そのつど信託財産から支払われます。											

※当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

【税金】

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税	配当所得として課税
	および地方税	普通分配金に対して 20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税	譲渡所得として課税
	および地方税	換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して 20.315%

※少額投資非課税制度「愛称・NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※上記は、当資料発行日現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認されることをお勧めします。



委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図を行う者) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会	【ホームページ・携帯サイト(基準価額)】 https://www.pictet.co.jp
受託会社	株式会社りそな銀行(ファンドの財産の保管および管理を行う者) 〈再信託受託会社:株式会社日本カストディ銀行〉	
投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド、ピクテ・アセット・マネジメント・エス・エイ(株式の運用指図を行う者)	
販売会社	下記の販売会社一覧をご覧ください。(募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払いを行う者)	

販売会社一覧

投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先
 ≪ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース≫

商号等	加入協会					
	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会		
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
SMBC日興証券株式会社(ダイレクトコース専用)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三証券株式会社(岡三オンライン専用)(注2)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
東海東京証券株式会社(注3)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○	○		
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社常陽銀行 (委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2) 岡三証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

(注3) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

≪ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース≫

商号等	加入協会					
	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会		
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○		



販売会社一覧(つづき)

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
東海東京証券株式会社(注2)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○	○		
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社常陽銀行 (委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
東海東京証券株式会社(注2)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○	○		
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社常陽銀行 (委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。